

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【茨城県大洗町の中学校2箇所で弦楽四重奏】

『被災地に音楽を』訪問コンサートで10月26日、日本フィル弦楽四重奏メンバーが茨城県東茨城郡大洗町の二つの中学校を訪問しました。3月11日の東日本大震災にて太平洋沿岸部に位置する大洗町でも、震度5の強い揺れとともに、5メートルの大津波が町を襲い、ライフラインの寸断と建物や道路、沿岸部に大きな被害が出ました。人的被害としては、死者1名、負傷者7名でしたが、住家屋被害としては、全壊、家屋半壊、床下浸水など1500件に及び甚大な被害を受けました。これら震災による被害に加え、東京電力福島第一原子力発電所での重大な事故による放射性物質飛来の影響が出てきています。県内畜産水産物の出荷制限や、放射性汚染水の海洋放出、風評被害により町の農業・水産業・観光業への影響は計り知れません。

その様な状況の下、大洗町にある二つの町立中学校にて、コンサートを行いました。南中学校は生徒数150名、教職員30名、父母や地元の方20名の200名程。第一中学校は生徒数300名、教職員30名、父母や地元の方50名の400名程の皆様にお集まり頂きました。メンバーはヴァイオリン：九鬼明子・坪井きらら、ヴィオラ：後藤悠仁、チェロ：大澤哲弥。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、クライスラーの「愛の喜び」「愛の悲しみ」、「見上げてごらん夜の星を」、SMAPのヒット曲「世界に一つだけの花」等を演奏し、生徒達や地元の皆さんに聴いていただきました。震災の影響にて大洗文化センターホールが休館の為、南中学校ランチルームと第一中学校体育館で開催。会場では小谷隆亮大洗町長も出席されました。ヴィオラ後藤悠仁の導きで、「音楽は音を楽しむもの、じっと聴き入るだけでなく立ち上がってリズムを楽しみましょう」と呼びかけると、多くの生徒達が立ち上がり、リズムを取って盛り上がりました。演奏後、後藤より「まだまだ苦しいこともあるでしょうが、お互いに支えあって一步一步前を向いて行きましょう」とやさしく語りかけ、コンサートを締めくくりました。また南中学校の生徒たちとは、ランチルームで給食を共にし、交流しました。



(写真上/南中学校 下/第一中学校)



【福島市松川町の4箇所で弦楽四重奏】



今年8月初めに福島市松川町の商工会職員のTさんからメールが届きました。その内容は、
「震災後5ヶ月が経過しようとしており、ライフラインこそ復旧はしてきておりますが、福島県民は放射能物質という『目に見えない敵』と、今後、終わりが見えない戦いをしていかなくてはなりません。私達の仕事の一つに、その放射能物質から避難されてくる方々を迎え入れる体制をとらねばならず、またその生活等の支援事業に対応していかなければなりません。見知らぬ土地での仮設住宅生活に予想以上の不安やストレスを抱えることになると思われます。そこで貴団体様のお力添えを頂き、避難されてくる方々のために、少しの時間でも音楽で癒し、励まして欲しいと思っています。また私は中学生の子供を持つ一人の母親として、私の子供が通う中学校へも音楽を届けてほしいのです。吹奏楽部員でトランペットを担当しておりますが、震災の影響で練習もままならず、先日県の区内の地区大会では非常に悔しい思いをしました。どこへ行くのにもトランペットのことがばかり考えていた子供だけに、何と言葉で励ましてよいかわかりませんでした。本来ならば明るい未来が待っている子供達、夢や希望を持つべき子供達なのに、放射性物質と向き合った学校生活を送らねばならず、そのせいで転校していった友達や避難してきた友達を迎え入れる等、不安定な生活を強いられています。そんな環境の中にいなくてはならない子供達も音楽で励まして欲しいのです。」
というものでした。私たちは「行きます！」と即答しました。11月24・25日の両日で4回の弦楽四重奏のコンサートを企画していただくように、お願いしました。

♪「までい(待て=ゆっくりといてねいに)の村」から全村避難をやむなくされた飯館村のみなさんも参加

今回のメンバーは日本フィルOBのヴァイオリン三本克郎、ヴィオラ山下進三(郡山出身)、チェロ奈切敏郎(川俣町出身)、そしてフリーで活躍している中村ゆかりさんの4人です。主催は松川町商工会商業部会「福島の元気は松川から」プロジェクトです。商工会の職員が総出で事前の準備と当日の会場運営をしました。新聞折込での宣伝や、仮設住宅へのチラシ配布など行き届いた準備がされていました。24日は午後2時から特別養護老人ホーム「みず和の郷」にて。隣の保育園から20名の子どもたちが最前列に並び、車椅子の入所者が80人、そして職員の方が30人集まりました。冒頭所長さんが「3.11以来悲しいことばかりでしたが、今日は幸せを分けてもらいましょう」とやさしく呼びかけました。今回のプログラムはモーツァルト：ディベルティメント、クライスラー：愛の悲しみ、愛の喜び、そしてドヴォルザーク：[アメリカ]より、です。子供たちも大人も高齢者もじっと耳を傾けていました。ここから次の会場に移動する途中で、全村避難をしている飯館村のみなさん700名が暮らす仮設住宅に立ち寄りしました。日本で一番美しい村「までいの村」飯館からの撤退、(裏面へ続く)



(飯館村仮設住宅)